



歴史を振り返り、将来を考える

「わがまち東部」発刊へ

このほど写真資料集「わがまち東部」が発刊の運びとなりました。

この冊子は、先人たちが築いた歴史と文化、またこれまでのまちのあゆみを後世にまで伝えていくことを趣旨に、地区の全町会長と、今年度開催された「東部地区まちづくり講座」参加者の中の住民有志らで組織された「わがまち東部編集委員会」によって、昨年からの継続的に編集作業が行われてきたものです。

「わがまち東部」は写真資料集とあつて、地区の歴史の変遷が過去の貴重な写真によって語られており、中には昔懐かしく感じられるような風景や町なみ等も多数掲載されています。

岩城文夫編集委員長は「この事業をおして、知らず知らずのうちにまちが大きく変化していることに気付かされる」とともに、昔と今、これま



1月28日 編集会議(東部公民館)

での地域のあゆみをしっかりと記録していくことの重要性を改めて感じました。本事業にあたり、たいへん多くの方から貴重な写真や資料をご提供いただき、本当に感謝しています。」と話され、後世へ記録として残していく重要性を感じました。

新年度早々には、希望者の方への無料配布も予定されており、手元に届くのが今から待ち遠しく感じられます。

身近な人権を、身近な視点から



3月13日
伊織霊水から
貞享騒動を学ぶ

「人権」をテーマとした学習会と聞くと、少し難しく考えしてしまうところもありますが、一方で「人権」は日常にありふれた普遍的なテーマでもあります。東部地区では、馴染みやすい切り口で、2つの学習会が行われました。

2月24日

人権映画上映会

「道〜白磁の人〜」

東部地区人権啓発推進協議会の主催により、日本人でありながら朝鮮の文化を愛し、朝鮮半島の自然復活に尽力した浅川巧の半生を題材とした映画「道〜白磁の人〜」の上映会が行われました。



た。

同会によると、今年度の地区視察研修会において、山梨県北杜市の浅川伯教・巧兄弟記念館を訪れた際に、同じテーマで大勢の皆さんと一緒に考える機会をもちたい、という参加者の要望があったことから、今回の映画の上映会につながりました。

上映会冒頭で大槻治仁会長から、人間が生まれることの神秘と生まれながらにして人権を有することの大切さ、尊厳についてお話があった後、映画の上映がスタートしまし

当日は35名以上の方が参加され、一様に真剣な眼差しで映画を鑑賞している姿がとても印象的でした。上映後に参加者の一人に感想を聞いたところ「国境や民俗の壁を乗り越え生きる主人公の姿に感銘を受け、とても良い映画でした。」と話されていました。

こうした方法で人権の諸問題に触れることで、身近なこととして考えるきっかけとなるかもしれません。



伊織霊水

東部・第三地区公民館の共催により、1686年に松本藩で起こった百姓一揆、貞享(加助)騒動にかかわる資料が多数展示されている安曇野市三郷の貞享義民記念館を訪ねる講座が開催されました。

この講座は、鍛冶橋の南側、東部と第三地区の境近くにある井戸「伊織霊水」の名の由来となった鈴木伊織という一人の武士を端緒としながら、生きるための権利獲得のためにたたかかった義民の歴史を学ぶ、というものです。

伊織霊水の案内板には、貞享騒動の折、「藩士鈴木伊織は深く農民側に同情し入獄中の農民の助命を計りまたその救済に大奔走したと伝えられる」と記され、武士でありながら農民に信頼され慕われていた逸話も紹介されています。

特集 東部に暮らし、東部で働く 働き盛りの世代に聞く

地域の高齢化が叫ばれて久しい時代。同時に、地域に根ざした働き盛りの若い人たちの存在も少なくなっているように感じます。そこで今回は、こうした方々に今の仕事を始めたきっかけや地域で働くことのやりがい等、色々とお伺いしてみました。



職種 石材加工・販売業
大槻石材店(餌差町)
おおつき さとる 大槻 悟さん
(36歳)

高校3年生になるまでは航空関連の仕事を目指し、進学も考えていたようですが、当時の担任の先生や家業を営んでいるお父さんとの相談の中で、実家の石材店に携わることを選択。卒業後すぐに福島県の旧滝根町の石材業者へ行き、単身下宿しながら2年間、研修を兼ねて勤めたそうです。

その後、福島から松本へ戻り、父と二人三脚で家業を営みながら、地域の活動にも積極的に参加されています。

普段の仕事について伺ったところ、「仕事の中で法事に立ち会わせてもらう時、自分が造り、据え付けた墓石にご遺



大槻さんが仕事の合間に石の端材で作ったマウス

族の皆さんが手を合わせている姿を見ると、責任感とやりがいを感じます。自分が7代目として、こうして仕事をさせてもらっているのも先代のおかげ。常に諸先輩方への感謝の気持ちを持って仕事をするように心がけています。」と話され、「父がそうだったように、子どもが仕事を継いでくられて、自分も子どもと一緒に仕事ができたら良いなあ、とぼんやり思っています。つなぎ役となれるように頑張らないといけませんね。」と将来の夢も語ってくださいました。

大槻家では3人の男の子が元気に育っています。



職種 電気工事業
松本電業社(桜町)
くらさわ まさる 倉澤 優さん
(35歳)

工業高校を卒業後、実家が営む松本電業社へ入社。はじめは見習い期間として3年程勉強をしながら家業を手伝っていました。が、ちょうど同時期にCADシステムが普及し、あわせて各種書類等も電子化されてきたため、会社のシステム化の際

して尽力し、今では欠かせない存在となっています。

東部公民館でも電気に関する器具があると修理を行っている。と聞いており、仕事のやりがいを探ると、「やっぱり電気がついたときに、お客さんが喜んでくれる瞬間が一番です。ただ、工事の時の立ち合いは職員さんなので、実際に使う地域の方々の顔が見られたい嬉しいですね。」と言いな

ら、「時には危険な作業もあるので、今後ケガなく続けていきたいです。」と力強く抱負を語ってくださいました。



職種 日用品雑貨の卸業
腰原商店(東町2)
こしはら さとる 腰原 悟さん
(40歳)

2〜15歳までの4人のお子さんを育てるお父さん。

今の仕事に就く前は、南信地方のドラッグストアに勤めており、店長候補に抜擢された際、このままここで勤めていくか否かの葛藤の中で、住み慣れた松本へ戻り、父の仕事を手伝う決断をしたのが、

この仕事を始めるきっかけだったそうです。

午前中は伝票の作成、午後には取引先へ商品を配達するのが日課ですが、腰原さんがパソコンで伝票を作るようになる以前は、「父が夜中まで伝票を手で書いていた姿をよく見ていました。」と語るように、とても大変だったようです。

「今年上の子が受験で」と笑いながら、「なかなか厳しい時代ですが、ご近所の方のご愛顧に感謝しながら、継続して仕事を続けていきたいです。」と話されていました。

ひろばに響く春を告げる音色 早春コンサート

3月9日、福祉ひろばでは、手回しオルゴールシンガールの白井則孔(のりく)さんを招き、早春コンサートが開催されました。

白井さんは、カード式手回しオルゴールで歌うという独自の演奏スタイルを確立し、日本各地でコンサートを展開する安曇野市穂高出身のアーティストです。

当日は、「春よこい」「早春賦」「花は咲く」等の楽曲が披露され、聴きに訪れた方は、珍しい演奏方法と世界観から奏でられる美しい癒しの音色に、まだ少し早い春を感じながら聴き入っていました。

